

事業報告書

日時	令和3年11月6日(土) 14:00~16:00
目的	<p>男性の家事・育児参画を促進していくためには、男女が協力して家事・育児を行ったり、男女が共同して社会に参画したりすることの重要性や家庭の大切さについて、教育・啓発を通じて伝えていくとともに、生活を営むために必要な衣食住や保育などに関する知識や技術を身に付けられるような取組を行うことが重要である。</p> <p>当該講座では、小学生の子どもを持つ父親を対象に、「お金」について判断力や知識を養う金融教育を題材に、ゲーム等を取り入れ、暮らしに身近な「お金」の情報を学ぶとともに、子どもと一緒に参加することで、父親の子どもへの積極的関わりを促すことを目的とする。</p>
対象	父親と子ども(小学生4年生までの児童)
講師	沖縄県金融広報委員会金融広報アドバイザー 岸本トモ子氏、大城人志氏
会場	ているる3F 創作室・生活実習室
参加者数	大人7名 子ども11名
講演内容 (概要)	<p>1 はじめに</p> <p>①日本のお金(硬貨と紙幣)の種類 現在、日本で流通しているお金の種類と金額について、現物を見ながら確認した。</p> <p>②お金はどこからやってくる? みんなが使っている「お金」は、みんなの両親が一生懸命働いて得たものだから、感謝して使い、さらに、「お金」は、子の誕生の前からベビー用品を購入するために使われ、死後は、亡くなった方の葬儀代としても使われる。生涯使うものだから、大切に使うと話があった。</p> <p>2 「おつかいすごろく」</p> <ul style="list-style-type: none">・おつかいすごろくのシートを使い、父子ですごろくゲームを行った。・千円の所持金で、明日の遠足の材料を架空のスーパーマーケットで購入するが、千円の範囲内で、お弁当の材料(野菜は必ず一つ購入すること。)と、おやつ(300円以内)を購入しなければならず、「おつかいかんりシート」を元に子どもたちが自分で工夫して購入品を決めた。・購入した商品は、「おつかいきろくシート」に買ったもの、使ったお金及び残りのお金を記入し、残金を計算しながら、全額使う子、お金が余る子と様々なケースがあった。・すごろくの途中で、「クイズカード」の箇所にとまると、父子で相談しながらクイズを解き、すごろくを進めた。 <p>・すごろくが終了すると、購入した商品で、おべんとうとおやつの絵を色鉛筆や色マーカーで思い思いに描いた。</p> <p>・今回のすごろくゲームでは、時に商品を買うか買わないか選択を迫られる場面で、父子で相談して購入品を決めたように、みんなが大きくなって自分でお金を稼いで使うときも、「自分の心で決めて、賢い消費者になろう。」と、お金の使い方について理解を促した。</p> <p>3 貯金箱づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・「はしご車、新幹線、ワゴン車」のダンボール製模型を組み立てる貯金箱づくりに父子でチャレンジした。・製作過程では、見本の貯金箱を見たり、先生にアドバイスを求めたり、父と協力しながら組み立て、目標貯金額をそれぞれに決めながら、カラフルに色塗りし、オリジナルの貯金箱が完成した。

4 質疑応答

・小学2年生の男児から「自分で貯めたお金で、スマホを持ちたいけれど、両親の承諾が得られないがどうしたらよいか。」と発言があった。岸本講師、大城講師の両者から「スマホは大変便利だけれど、スマホを持つことでゲーム課金の過大請求や、SNSが気になり学習に集中できないこと等、スマホに関連するトラブル事例を具体的にあげ、小学生でスマホを所持するのはまだ早く、どうしても使いたいときは両親のスマホを使用したり、タブレット端末を使おうね。お金は大事に貯めておこうね。」と回答があった。

5 おわりに

①男女共同参画の観点から

・今回のように、幼児期や学童期に父子で同じ時間を共有したことが将来にわたって、親子関係が信頼で結ばれる。子どもが思春期や青年期になり、何かに悩んだときや困ったときに父親に相談できる関係が理想で、そのためにも日頃から積極的に子どもと関わるのが大事であると、講師から話があった。



参加者の声

(自由記載欄より抜粋)

- ・子どもと時間を共有できたことが印象に残っています。
- ・小学校高学年や中高生対象の講座（クレジットカードやリボ払い等）についても聞いてみたいです。

主催等

主催：沖縄県、(公財)おきなわ女性財団